

**「国家戦略とされた循環経済への移行  
加速化に向けて  
～日本型サーキュラーエコノミーの  
特徴と今後の展望について～」**

2025年11月17日

3 R・資源循環推進フォーラム会長

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長

細田衛士

# 国の施策の変化

# 第5次循環型社会形成推進基本計画について

## その要点

- これまでの循環型社会を基盤に、循環経済（サーキュラーエコノミー）を実現することを目指している。
- その眼目は
  - （1）産業競争力の強化
  - （2）経済安全保障
  - （3）地方創生
  - （4）高質の暮らしを実現すること。そしてデカプリング！

# 改正資源有効利用促進法の要点

1. **再生資源の利用**計画策定・定期報告
2. **環境配慮設計の促進**（資源有効利用・脱炭素化促進設計指針）：特に優れた環境配慮設計（解体・分別しやすい設計、長寿命化につながる設計）の認定制度、金融支援
3. **GXに必要な原材料等の再資源化の促進**（資源有効利用・脱炭素化促進設計指針）：認定を受けたメーカー等に対し廃棄物処理法の特例、回収・再資源化のインセンティブ
4. **CE（サーキュラーエコノミー）コマース**の促進

# サーキュラーエコノミーと共創

# 競争経済から共創経済へ

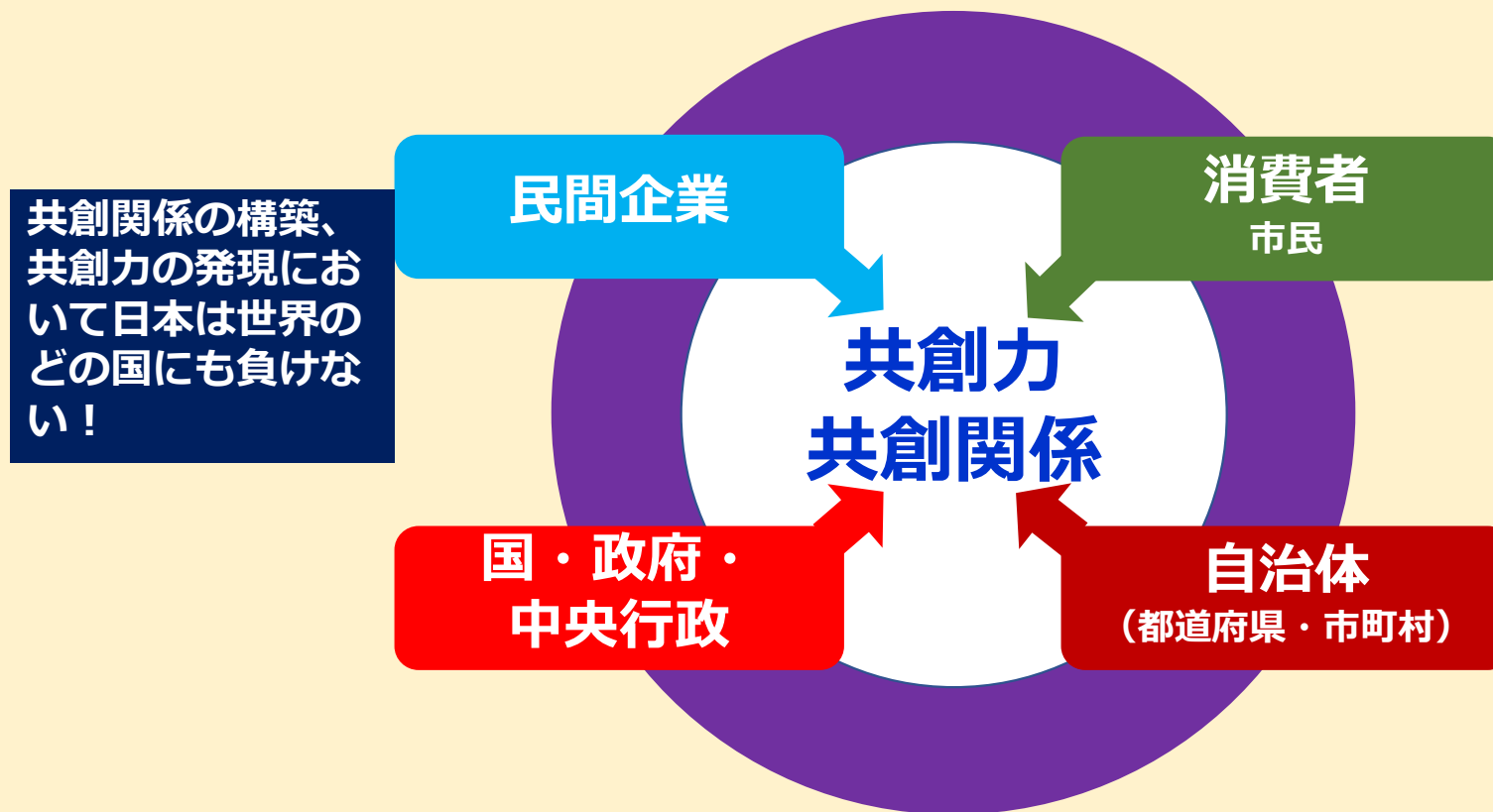
- サーキュラーエコノミー実現のためには、**従来型の市場競争から共創経済へ**、すなわち**産官学民の連携協力によって付加価値が創出される経済**への移行が必要。
- もちろん、**市場競争は重要**だがそれだけではうまくいかない。
- **競争をベース**としつつも、新しい考え方、**共に創り上げる方法、つまり共創**を実践することが求められる。
- しかしそのような事例はまだまだ少ない。
- ということは、**良い事例から学び取り、それを自分なりの方向で新たに展開すること**が求められるということ。

# 循環経済に必要な条件、共創力

## 共創力とは何か

- **共創力**とは、同業種・異業種の企業、あるいは市民（消費者）、自治体、教育研究機関など、様々な主体が**連携協力して付加価値を創出**する力。
- 循環経済では**競争力とともに共創力が必要**。
- **連携協力のスタイルは多様**であり、これでなければならないということはない。
- **自分の組織（企業、市民、自治体、国、教育研究機関）にあった合った共創関係の在り方**を模索することが重要。⇒**共創関係の独自性！**

# 連携協力による共創力の強化





# 循環経済に必要な条件、共創力

## 共創と競争のバランス

持続可能な経済社会：私益×公益の向上

従来の枠組みを超えた新しい経済社会

市場  
循環経済

新しい付加価値の創出！

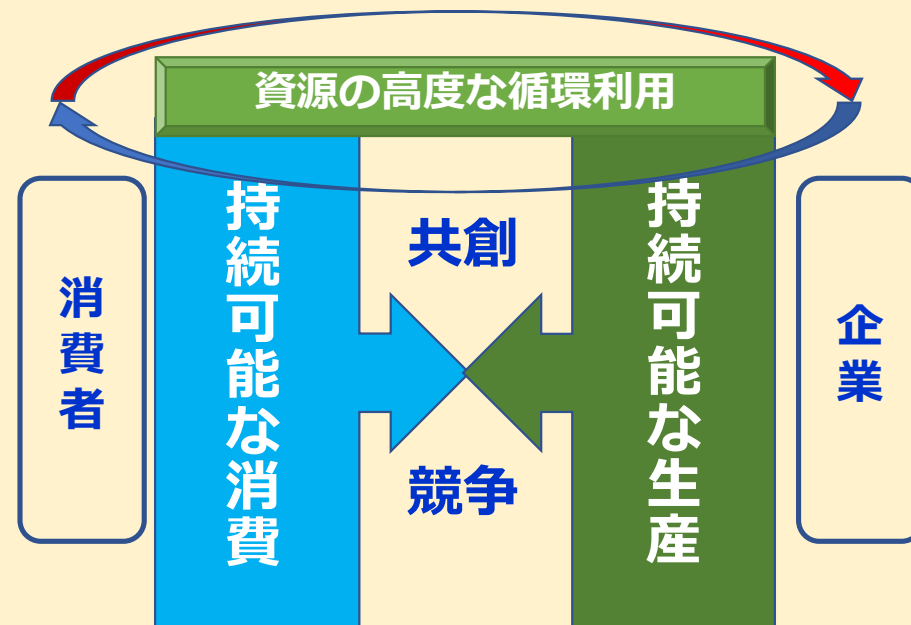
競争力  
競争関係  
競争原理

多様な主体の独立的活動

共創力  
共創関係  
共創原理

多様な主体による連携協力

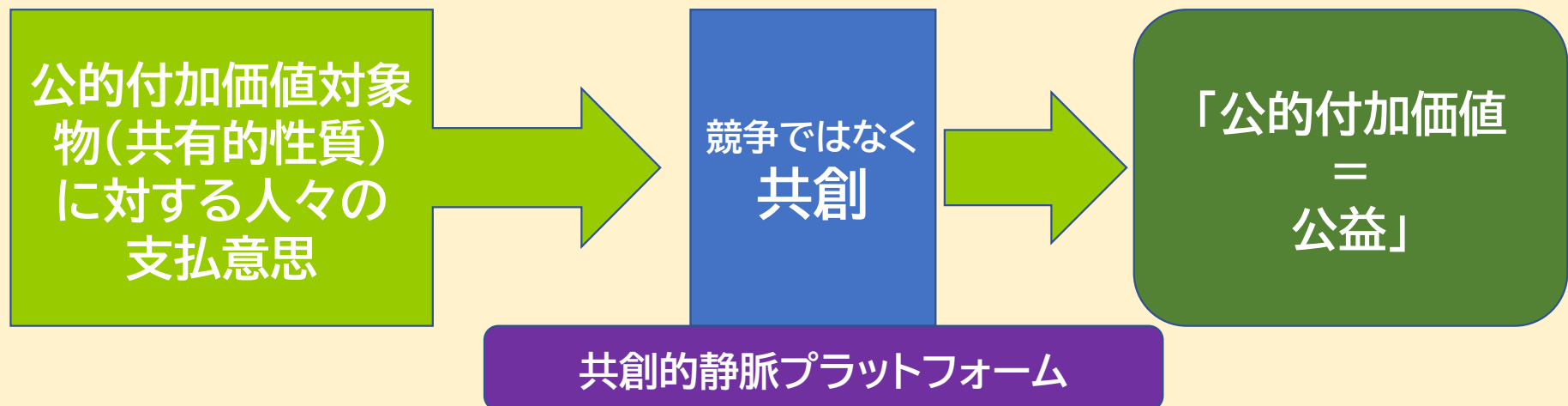
# 持続可能な生産と消費の同期



国・自治体（都道府県、市町村）

# 共創によって創出される公的付加価値

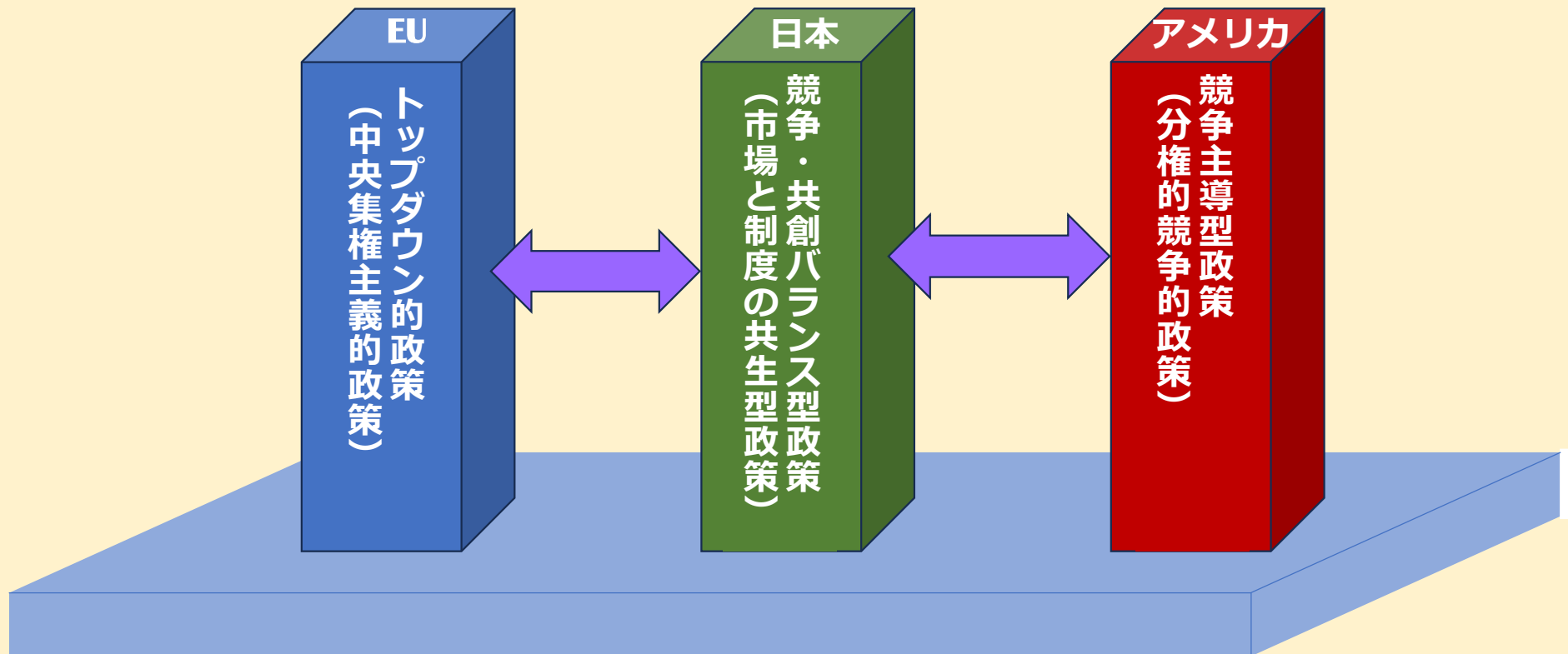
街の美しさ、衛生的な都市環境、安全で正確な輸送、信頼と信用（ビジネスの基礎）などの公的付加価値は、共有的性質のため人々の支払意思があっても競争市場では生まれにくい。



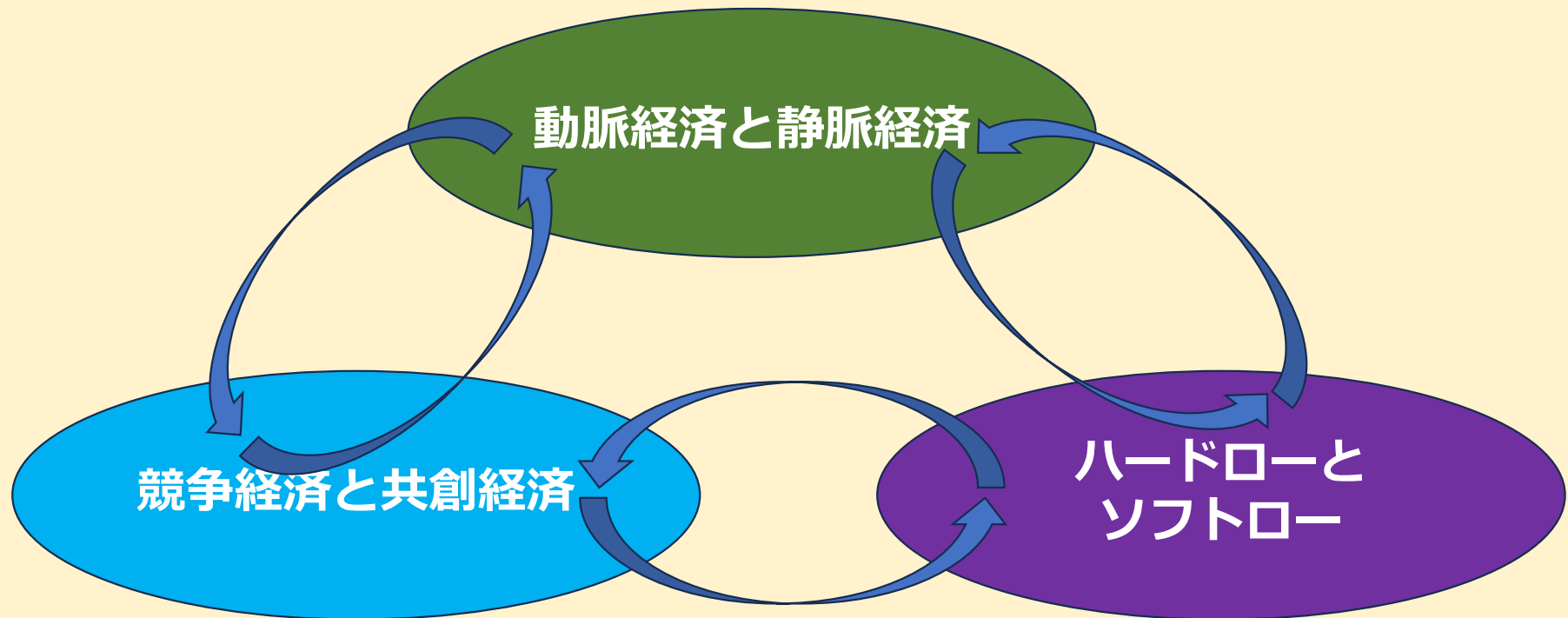
# 共創的シナジー効果

- 知識と知恵の連携協働
- 循環戦略・戦術の連携協働
- 管理・運営の連携協働
- 実際の業務の連携協働
- 一人、一社でできないことが、二人、二社ならできるかもしれない。
- 「三人寄れば文殊の知恵」、多者・多社が協働すればこれまでにない新しい展開が期待できる。
- そのリエゾン（つなぎ）そしてハブの役割を果たす組織的取り組みも必要！

# サーキュラーエコノミー構築における日本の立ち位置



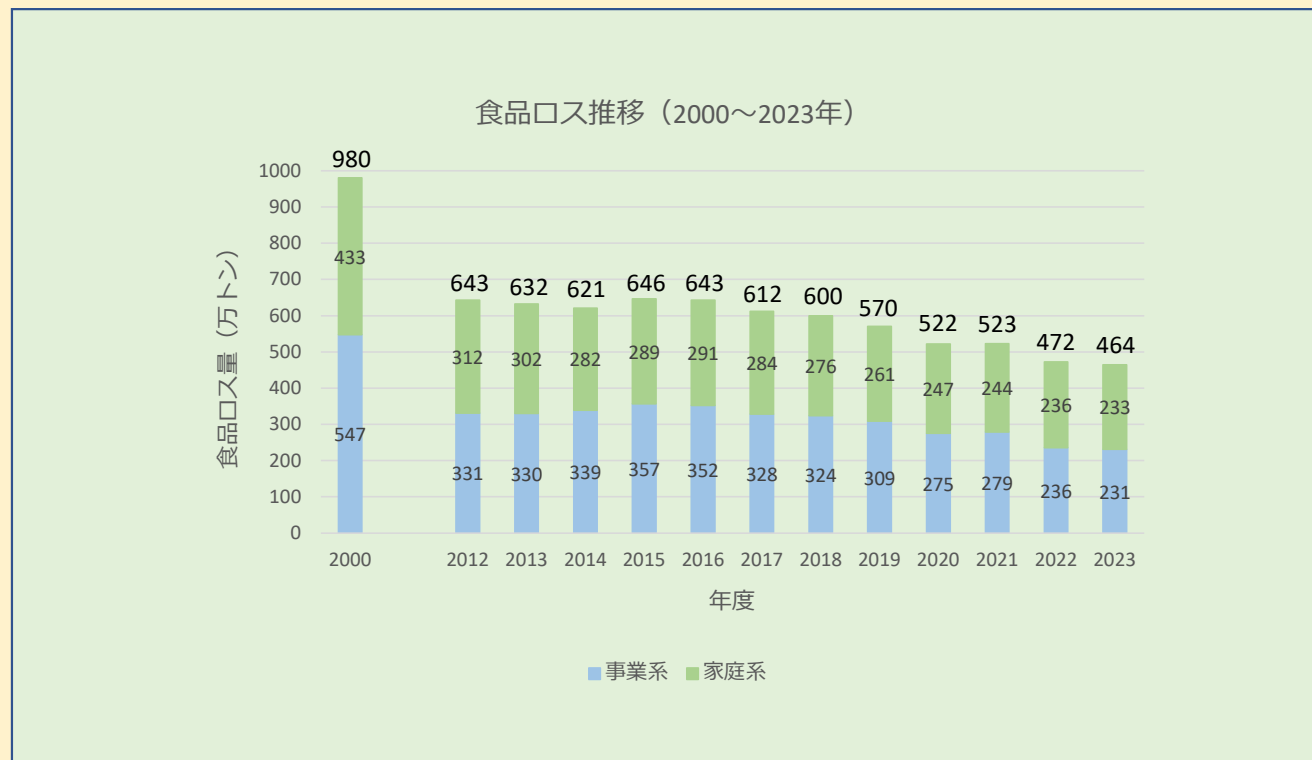
# 3つのペアの三位一体



どの3つの楕円をとっても日本の十八番！

# 共創の成果

# 食品ロスの削減も行政と市民の協力の賜



資料出典：食糧庁（筆者が一部編集）



# 共創関係の構築の事例

- KOBE PTASTIC NEXT
- CLOMA
- エフピコ
- CPs
- 白井グループ
- ワタミグループ
- バローホールディングス、中部フーズ、ソフトバンク、日本気象協会

# エフピコの事例（１）

## 「トレーtoトレー®」「ボトルto透明容器™」のリサイクル

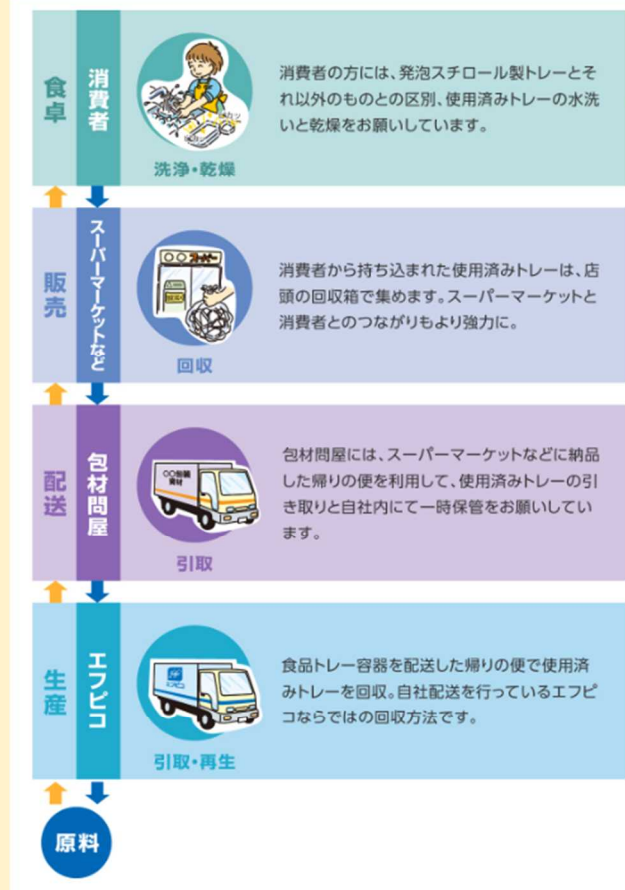
エフピコ方式のいちばんの特徴は、回収した使用済みトレーやPETボトルを原料に戻し、また食品トレー容器を作ることです。

これを「トレーtoトレー®」「ボトルto透明容器™」と呼んでいます。

エフピコは世界で初めて使用済みトレーから食品トレー容器に生まれ変わる「循環型リサイクル」を始めました。



# エフピコの事例（２）



## 連携協力は資源の高度な循環利用のための基礎条件！

### みんなで行うリサイクル（4者一体でリサイクル）

使用済みトレイやPETボトルのリサイクルはエフピコだけではできません。消費者の皆様もリサイクルに協力いただき、全員参加で行っています。

洗って乾かした使用済みトレイはスーパーマーケットの店頭などに設置された回収箱で集められ、さらにエフピコが配達の帰りのトラックでこれを引き取り、エフピコが再生します。

4者一体となることで、大量の使用済みトレイやPETボトルがムダなくスムーズにリサイクルされるのです。

資料出典：エフピコのウェブサイト、[https://www.fpc.jp/esg/environmenteffort/fpc\\_recycle.html](https://www.fpc.jp/esg/environmenteffort/fpc_recycle.html)

# 共創関係でB2Bが進展するペットボトル

- 全国清涼飲料連合会は「**2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す お客様、政府、自治体、関係団体等と連携して**」。
- さらに全清飲は、2030年までに**ボトルtoボトルを50%**まで引き上げることがを宣言。
- 「『マテリアルリサイクル技術の進歩』と『ケミカルリサイクルの確立』を通じて**より高い『ボトルtoボトル』リサイクル比率を目指す**」としている。

資料出典：全国清涼飲料連合会ウェブサイト、<https://j-sda.or.jp/environment/bottle-to-bottle.php#:~:text=>

# サーキュラーエコノミーと地方創生

# 「地域」というキーワードは重要！

- もちろん**地域に根付いた取組み**がとても重要、**地方創生**の動きとも同期。
- カーボンニュートラルも循環経済（サーキュラーエコノミー）も**地域を抜きにしたら語れない**はず。（⇒EUやエレン・マッカーサー財団の報告書には地域の観点が薄い⇒つまり**地域循環・カーボンニュートラルは日本の強み！**）
- **地域で知恵と知識**を紡ぎ合わせ、**共創的付加価値**を作り出せるのは誰か？⇒**地方創生！**
- そのためには、**共創のパワー**を活かしつつ**挑戦する**ことが必要。

# CEと地方創生：レイヤー概念図



# CEと地方創生：地域循環共生圏という発想

## CEと地方創生の力ギになる概念、それは『地域循環共生圏』 地域循環共生圏とは

地域循環共生圏は日本が目指す持続可能な社会の姿です。

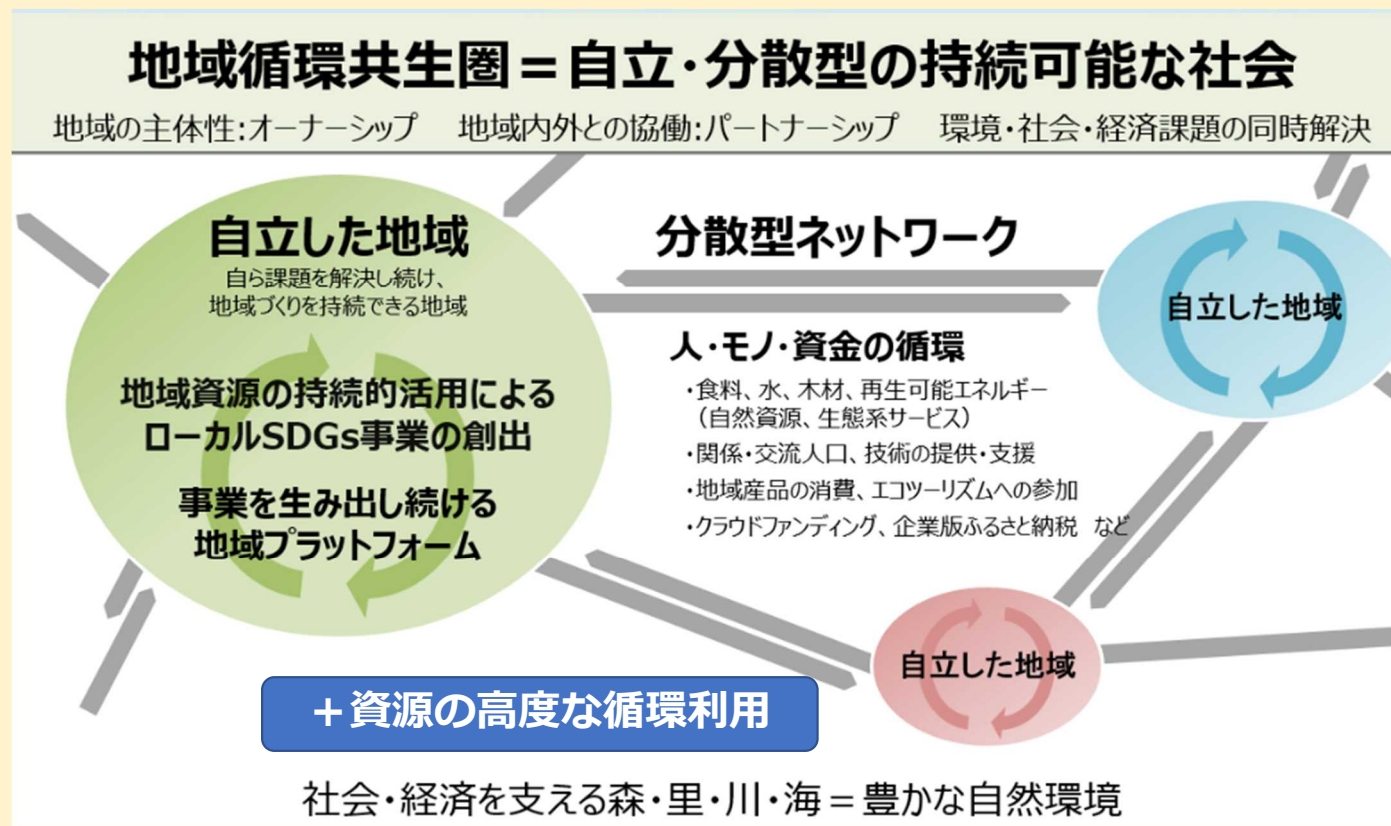
2018年、国の第5次環境基本計画で掲げられました。都市も地方も多くの課題が山積するなか、それぞれの地域が主体的に「自ら課題を解決し続け」、得意な分野でお互いに支えあうネットワークを形成していくことで、地域も国全体も持続可能にしていく「自立・分散型社会」です。

地域で環境・社会・経済の課題を同時解決する事業を生み出していくことから「ローカルSDGs」とも呼ばれています。

資料出典：環境省、<https://chiikijunkan.env.go.jp/>  
細田衛士



# CEと地方創生：地域循環共生圏Japan



資料出典：環境省、<https://chiikijunkan.env.go.jp/>、筆者加筆  
細田衛士

おわりに

# おわりに

- サーキュラーエコノミー実現に向けて**国も本腰**を入れはじめた。
- サーキュラーエコノミー実現には、**競争経済に加えて共創経済という発想が必要**。
- **共創力を高めて、資源の高度な循環利用を推進**し、持続可能な経済社会を構築する。
- **共創関係に基づいた資源循環スキームも多様な形で**でき始めている。
- **地域循環共生圏、地方創生**の発想を取り入れ、全国でこの流れを加速すべき。